

# 環境や交通安全に配慮した施設全体の配置

敷地内を極力緑化し、景観に配慮  
→「鵲森（かささぎのもり）」復元

## ●「森之宮」地名の由来

大坂城のあたりに広々鎮座していた生國魂神社の東側に森が広がっていました。598年、新羅より持ち帰ったカササギをこの森で飼育したことから鵲森と呼ばれるようになりました。同じ頃、聖徳太子が用明天皇を祀る鵲森宮を当地に造営。この神社の通称である森之宮が地名の由来となっています。地域に根ざした水素ステーションを目指し、ここにあった鎮守の森を復元するようにアカマツを軸に樹種を選定し、植栽を行います。



アカマツ

## ●大阪城公園のサクラの風景をつなげる

隣接する大阪城公園の景観を代表するサクラ（ソメイヨシノ）を道路沿いに植えることで、サクラの風景を拡張すると共に、賑わいを演出します。



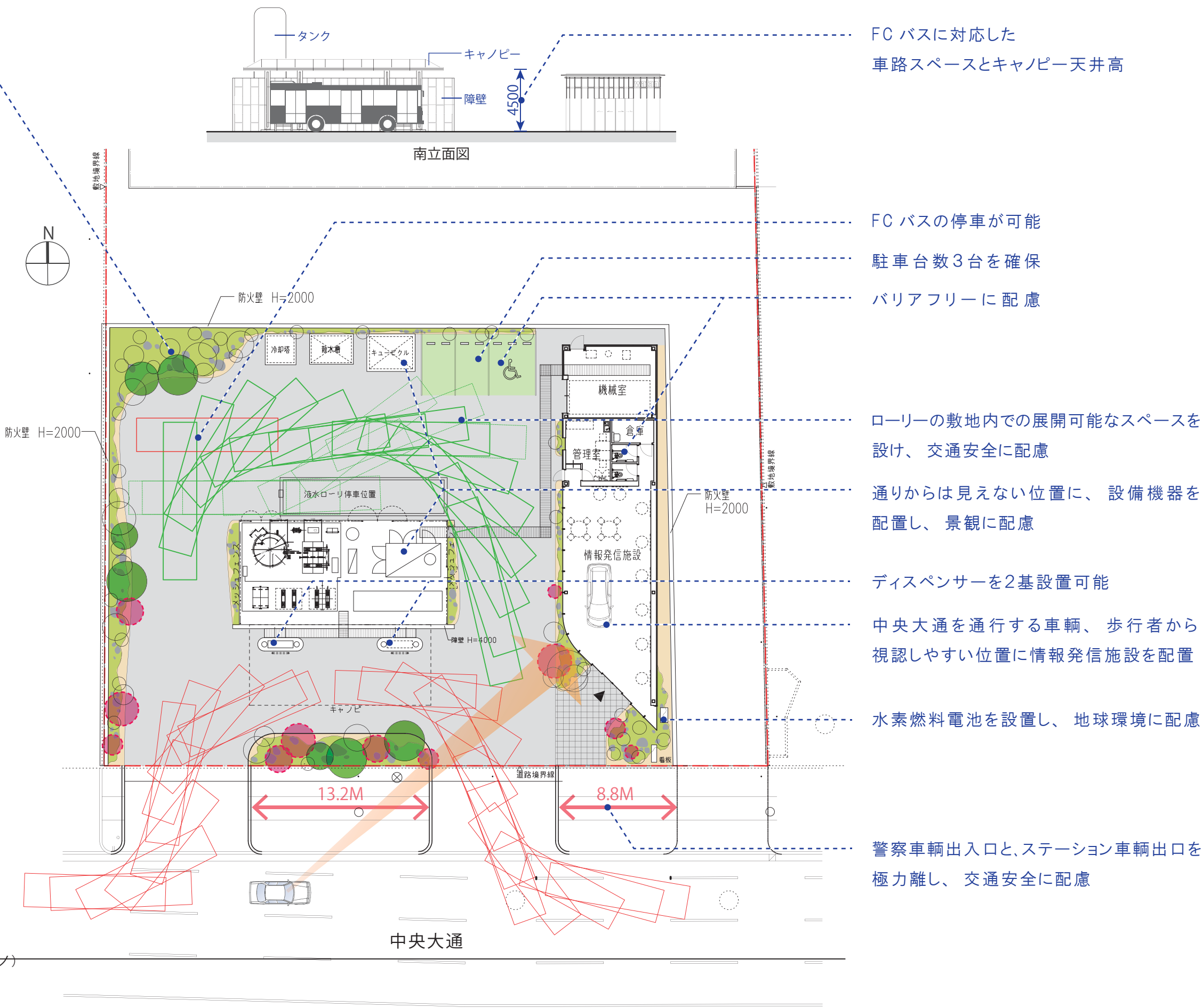
ソメイヨシノ

### 車両軌跡凡例

- : ローリー軌跡
- : FCバス軌跡

### 平面図樹木凡例

- : アカマツ
- : サクラ（ソメイヨシノ）



FCバスに対応した  
車路スペースとキャノピー天井高

FCバスの停車が可能  
駐車台数3台を確保  
バリアフリーに配慮

ローリーの敷地内での展開可能なスペースを  
設け、交通安全に配慮

通りからは見えない位置に、設備機器を  
配置し、景観に配慮

ディスペンサーを2基設置可能

中央大通を通行する車輛、歩行者から  
視認しやすい位置に情報発信施設を配置

水素燃料電池を設置し、地球環境に配慮

警察車輛出入口と、ステーション車輛出口を  
極力離し、交通安全に配慮

中央大通